

# サイバー攻撃14秒ごと、対策急務

AI(人工知能)によるデジタルトランスフォーメーション(AI)が進む中、サイバー攻撃の手法は驚くほどの速さで進化し、企業は対策に日々追われている。セキュリティ対策にかかる費用は単なるコストではなく、信用を守るために欠かせない投資となりつつある。サイバー攻撃への備えを強化するともに、経営者が説明責任を果たせるガバナンス体制の構築が求められる中で、法律とテクノロジーの専門家がAI時代の企業防衛や人材育成の重要性について語り合った。



セキュアソフト 副社長

神山 竜二氏

(かみやま・りゅうじ)

2012年より技術本部長としてIPS製品「Sniper」シリーズを統括。16年サービス&セキュリティ取締役、セキュリティ本部長に就任し、セキュリティ運用監視センター(SOC)及びセキュリティ脆弱性診断センターの立ち上げに尽力。19年セキュアソフトの副社長に就任。

国際弁護士

八代 英輝氏

(やしろ・ひでき)

慶応義塾大学卒業後、司法試験に合格。2年間の最高裁判所での研修の後、裁判官に任官。1997年に退官し、東京弁護士会に弁護士登録。2001年米国コロンビア大学ロースクールに留学し修士課程修了。米国司法試験(ニューヨーク州)に合格。05年八代国際法律事務所を開設。

サービス&セキュリティ 副社長

宮野 隆氏

(みやの・たかし)

1973年CSK(現SCSK)入社。97年代表取締役副社長。2004年セゾン情報システムズ代表取締役社長、16年Office HIRYU 最高経営責任者(CEO)。18年サービス&セキュリティ副社長に就任。

## ガバナンス強化が核心

宮野 日本企業は、約14秒に1回の頻度でサイバー攻撃を受けているといわれています。AIの進化により、これまでより少ない時間で短時間に高度な攻撃を仕掛けることが可能になり、防御側が対応する前に攻撃されるリスクも高まっています。強固な対策を講じている大企業であっても、わずかな脆弱性があれば侵入を許す可能性もあり、サイバーセキュリティはもはやIT(情報技術)部門だけの課題ではなく、企業全体で取り組むべき経営課題と言えます。

八代 確かにAIが普及する現在、リスク管理の核心は技術だけではなく、組織としていかに説明責任を果たすかというガバナンスにあります。どのデータを使い、どの国の法域において、どのような意思決定プロセスを経たのかという設計思想が問われます。企業法務ではデータガバナンスやAI利用ポリシーの設計なども求められるようになり、弁護士もAIやセキュリティを理解していることが前提となりつつあります。

神山 実際、昨年は脆弱性を突いた攻撃による不正アクセスで、システム停止や情報漏洩が相次ぎ、社会への影響も長期化しました。これにより企業や社会全体がサイバー攻撃のリスクを改めて認識するようになったと感じています。この脅威に対応するため、当社グループでは、事前の防御から事後の対応まで一貫した総合セキュリティ対策を提供しています。セキュアソフトが開発した最先端の不正侵入防止システム「Sniper ONE」シリーズ

で、ネットワーク上の不正アクセスや攻撃を検知・防御するほか、サービス&セキュリティ(SK)の運用監視センター(SOC)では、顧客システムを24時間365日体制で有人監視し、攻撃の兆候を早期に察知しています。さらに、セキュリティ事故対応チームでは、脆弱性診断によるリスク管理や、デジタルフォレンジック(電子鑑識)を用いたインシデント発生時の原因調査・被害状況の把握を支援しています。インシデント対応において、迅速な初動対応から再発防止策の構築まで、一連のコンサルティングも提供しています。このように「予防・早期検知・分析・事後対応」の流れを通じて、企業が直面するサイバーリスクに包括的に対応できるように努めています。

## 企業の信用を守る心臓部

八代 海外では、最高情報セキュリティ責任者(CISO)やセキュリティエンジニアは事業継続(BCP)やコンプライアンスを確保する観点から、重要な人材と位置付けられています。報酬水準も他職種より高く設定される傾向があります。技術力だけでなく、経営層への説明力や法規制への理解が重視されることから、ロースクールでそうしたテック人材を育成する動きもあります。日本においても、セキュリティ人材は技術者であると同時にガバナンスの担い手であり、企業価値を守る要職と位置付けていく必要があるでしょう。

宮野 まさにその通りです。SKでは、セキュリティ

人材のスキル向上だけでなく、経営層への説明力やガバナンス意識を高める取り組みを進めています。その一環として、ジョブローテーション制度を導入し、多様な仕事を経験できる環境を整えています。こうした経験から、判断力や全体を見渡す視点を養う必要があります。さらに、SOCや脆弱性診断センターで、専門的な知見やノウハウを社内へ蓄積しています。これにより、座学だけでは学べない実践的スキルを身につけられる点が、SKの大きな特徴です。また、有資格者しか担えない独占業務の定義や待遇改善を進めることで、専門人材の社会的地位向上と新しい人材の

## セキュリティ対策はこの1台で解決



Sniper ONE

セキュアソフトの「Sniper ONE」シリーズは、高度なセキュリティ機能を1台に凝縮。最新の攻撃分析ノウハウと脅威情報を生かした高精度IPS機能に加え、大量のデータを送りつけてシステムを停止させるDDoS(ディードス)攻撃対策やDNSサーバー防御など、顧客のニーズに応じて追加できる。多様なトラフィック制御技術を重層化し、「進化するセキュリティプラットフォーム」としてデジタル時代の防波堤となる製品だ。

八代 企業はセキュリティに対する社会の目は、一層厳しくなっています。企業の信用を担うという点で、セキュリティ部門は企業の心臓部だという認識でも大きくなってきています。AIやデータが社会の基盤となる時代。法と技術を架橋し、透明で責任ある仕組みを構築することが重要です。そうした取り組みこそが、日本企業が世界で信頼を勝ち取る最大の力になると思います。

お問い合わせはこちらから!  
E-Mail : sales@securesoft.co.jp  
サービス&セキュリティ:  
https://www.ssk-kan.co.jp/  
セキュアソフト:  
https://www.securesoft.co.jp/



株式会社セキュアソフト



サービス&セキュリティ株式会社

広告

企画・制作=日本経済新聞社 Nブランドスタジオ